

科目名	地理学概論		英文表記	Geography		3月20日		
科目コード	3016							
教員名:木村和雄 技術職員名:						修正		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科			3年	必	履修	2単位	講義	通年
科目目標 【MCC目標】	①現代社会を構築してきた人々の活動とその背景を系統地理学的に把握する。②社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。【Ⅲ-C】【Ⅶ-C】【Ⅶ-D】【Ⅶ-E】							
総合評価	定期試験(中間・期末)の得点(60%)、レポート(20%)および受講態度(20%)により評価する。							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	80%	① 現代社会を構築してきた人々の活動とその背景を系統地理学的に把握する。	理解度を定期試験とレポートで評価する	将来、受講生が活躍する「場」の地域像をイメージでき、その改善に関わる意識を持つ。	自然環境・人口・産業立地の地域性を生んだ要因・過程を理解できる。	自然環境・人口・産業立地の地域性を理解できる。		
20%	② 社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。	理解度を定期試験とレポートで評価する	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等から、地域差を生む要因を説明できる。	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等から、地域の特徴をイメージできる。	気象統計・地形図・ハザードマップ・人口統計・各種分布図等を読むことができる。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4				
	○			○				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		60	0	20	20	100		
基礎的理解	①②	55		15		70		
応用力(実践・専門・融合)	①②	5		5		10		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0		
主体的・継続的学修意欲	①②				20	20		
授業概要、方針、履修上の注意	授業は主に講義形式で行う。講義は系統地理学各分野のうち、1)地圏環境と空間利用、2)人口の分布・構造と変化、3)産業立地の3テーマに焦点を当てる。この構成は、近代以降現在に至るまでの日本あるいは日系企業の「3)製造業立地」による地域への影響を理解すること最終目標とし、それと密接に関わる背景や要因として、日本あるいは世界各地の「2)人口」や「1)地圏環境」などの地域特性を把握してもらうことを意図している。それぞれについて、知識や情報読解能力の定着を定期試験で評価する。ただし、4回の定期試験のうち、1回(前期末)は、防災等に直結する身近な地圏環境を理解することを主目的に、第7-13週の講義内容を踏まえて実施する第14-15週の演習の成果品(レポート等)の評価をもってこれに替える。							
教科書・教材	教員が作成した講義資料および演習課題(学内サーバー上で順次公開)、インターネット上で利用可能な各種資料・データベース・Web-GISなど(授業内で指示)、Adobe ReaderまたはPDFを表示し注釈記入できるアプリ							

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	地理学への招待	2	地理学の全体像と授業の狙いや進め方を概説する		
2	統計気候1	2	気候要素と地球規模の成帯的な統計気候を学ぶ		
3	統計気候2	2	気象統計を用いた地域区分の方法を実習する【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
4	統計気候3	2	日本各地の統計気候的位置を知る		
5	総観気候	2	天気図や気象衛星画像の気候学的判読方法を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
6	植生と土壌	2	気候との関係が深い地圏環境について学ぶ		
7	水文環境	2	様々なスケールにおける水の分布と動きについて知る		
8	前期中間試験	2			
9	地形の形成要因	2	地形を造る力＝営力について知る		
10	地殻変動と火山活動による地形	2	大規模な地形の骨格となる変動地形・火山地形を学ぶ		
11	浸蝕作用と地形	2	浸蝕作用や重力の影響が大きい斜面の地形を学ぶ		
12	堆積作用と地形	2	堆積作用が卓越する平坦地(低地)の地形を学ぶ		
13	暮らしの基盤としての地圏環境	2	地圏環境に関する地理学の応用法について学ぶ		
14	地圏環境情報の活用1	2	任意の地域におけるWeb-GIS等の活用演習を行う【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
15	地圏環境情報の活用2	2	任意の地域におけるWeb-GIS等の活用演習を行う【Ⅷ-C】【Ⅷ-E】		
期末	期末試験	[2]			
16	世界の人口1	2	地球規模の人口分布と近世以降の人口推移を学ぶ		
17	世界の人口2	2	世界各地における人口の基本構造を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
18	世界の人口3	2	世界各地の人口(社会)問題を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
19	世界の人口4	2	世界各地における人口の社会構造と戦後の人口移動を学ぶ		
20	日本の人口1	2	日本の人口分布と戦後の人口推移を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
21	日本の人口2	2	日本各地における人口の構造的特徴(問題)を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】		
22	日本の人口3	2	日本国内における戦後の人口移動について学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-E】		
23	後期中間試験	2			
24	産業基盤の地域性1	2	中世以降の世界における第1次産業立地を概観する		
25	産業基盤の地域性2	2	近代以降の日本における第1次産業立地を概観する		
26	近代工業の成立と展開	2	近代以降における世界各地の工業立地について学ぶ【Ⅷ-E】		
27	日本の工業地域1	2	日本における近代工業の成立と地域展開を学ぶ【Ⅷ-E】		
28	日本の工業地域2	2	現代⇄構造転換期の工業立地を分析する【Ⅷ-C】【Ⅷ-D】【Ⅷ-E】		
29	日系企業の拠点立地	2	製造業拠点立地における業種別の動向を学ぶ【Ⅷ-C】【Ⅷ-E】		
30	工業立地の地域性とその変容	2	工業立地の地域別の事例と地域社会との関係性を学ぶ【Ⅷ-E】		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間	
備考欄					
<p>・ この科目の主たる関連科目は歴史学概論(2年)、地球科学(4年)、地域文化論(4年)、環境変遷学(専攻科1年)である。社会を地理的に理解する上で必須の自然環境や時系列変化にも言及するので、自然科学や歴史分野との関係性も意識して受講すること。</p>					